

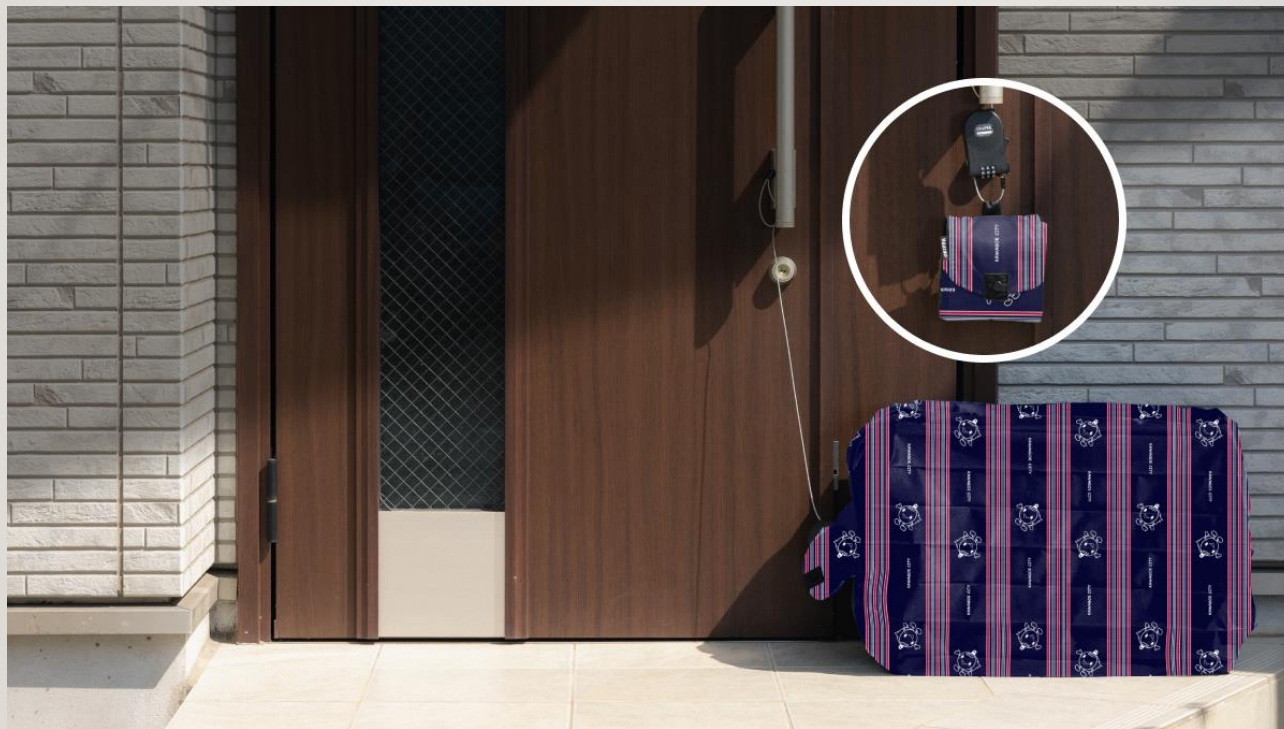
川越市 置き配バッグ無料配布事業 報告書

川越市産業観光部産業振興課

令和7年3月

置き配バッグ「OKIPPA」

※川越市オリジナルデザイン



置き配バッグ無料配布事業について



置き配バッグ無料配布事業について

○事業の目的

- ・市内における宅配便等に係る事業者の再配達への抑制
- ・宅配便等を利用する市民の行動変容

○本市の取り組み

- ・事業者における人手不足や物流の2024年問題解決への貢献
- ・2050年二酸化炭素排出量実質ゼロの脱炭素社会の実現を目指した地球温暖化対策

置き配バッグ無料配布事業について

○応募要件

- ・ 川越市内在住の世帯 ※ 1 世帯あたり 1 件の応募に限る
- ・ アンケートに協力できる世帯
- ・ その他の要件を承諾していただける世帯（個人情報の取扱い、使用に伴う損害等）

○応募方法

- ・ 電子申請（川越市電子申請・届出サービス）

置き配バッグ無料配布事業について

【初回募集分】

申請受付期間

令和6年6月10日～8月9日

配布個数

6,000個

応募件数

11,135件

【追加募集分】

申請受付期間

令和6年11月11日～11月20日

配布個数

2,000個

応募件数

5,786件

※（内訳）初回落選者＋新規申請者

当選者アンケート

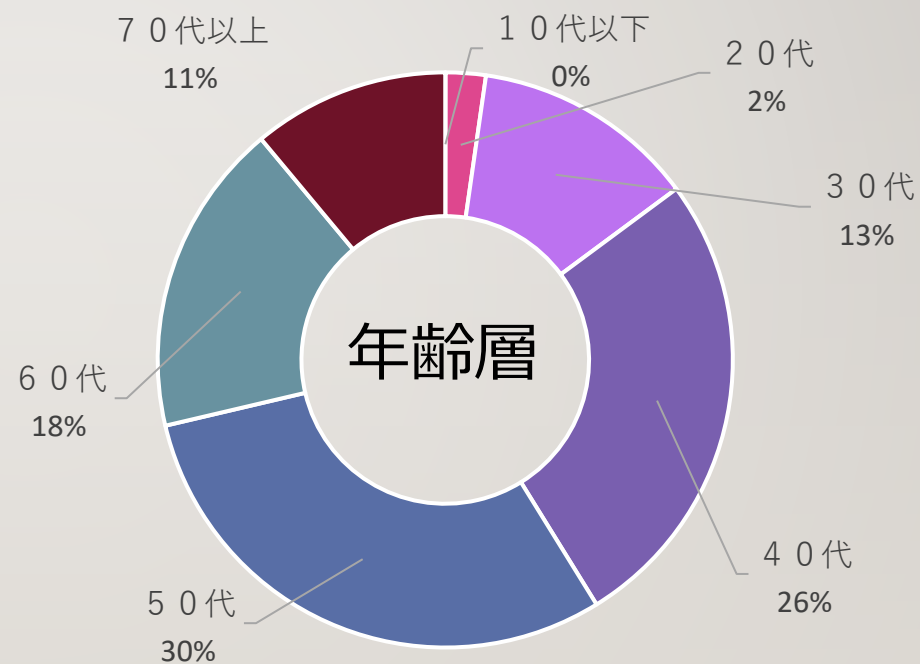


アンケート回答者の年齢層について

日中不在が予想される30代～50代が7割

幅広い世代の方から置き配バッグ無料配布事業にご応募を頂きました。

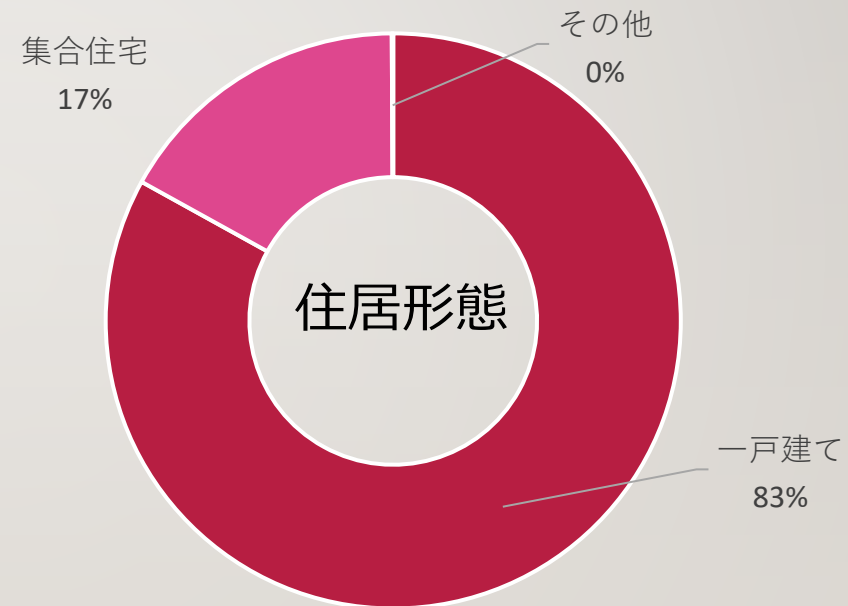
アンケートの回答につきましては、40代～60代の方を中心にご回答頂いております。



83%の方が戸建て住宅に居住中

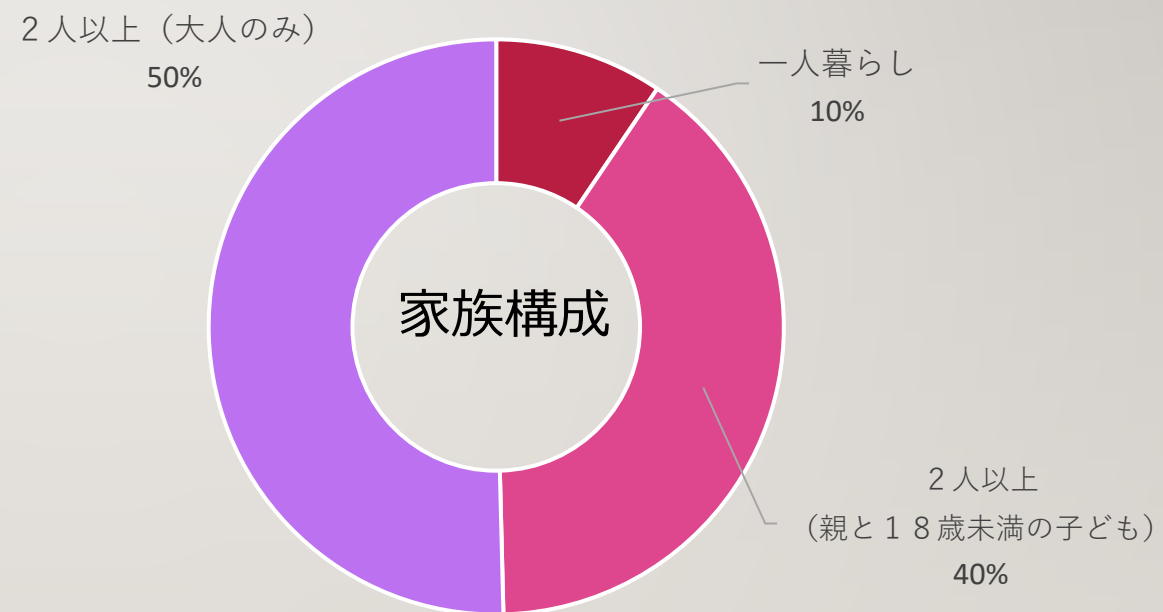
83%が戸建て住宅に住まわれていることがわかります。

集合住宅の場合は、共用の玄関口に置き配BOXが設置されているケースや、管理組合規定により各戸への置き配バッグの設置が難しい等のケースが考えられるため、戸建て居住者からの応募が多いと考えられます。



大人のみの世帯が半数

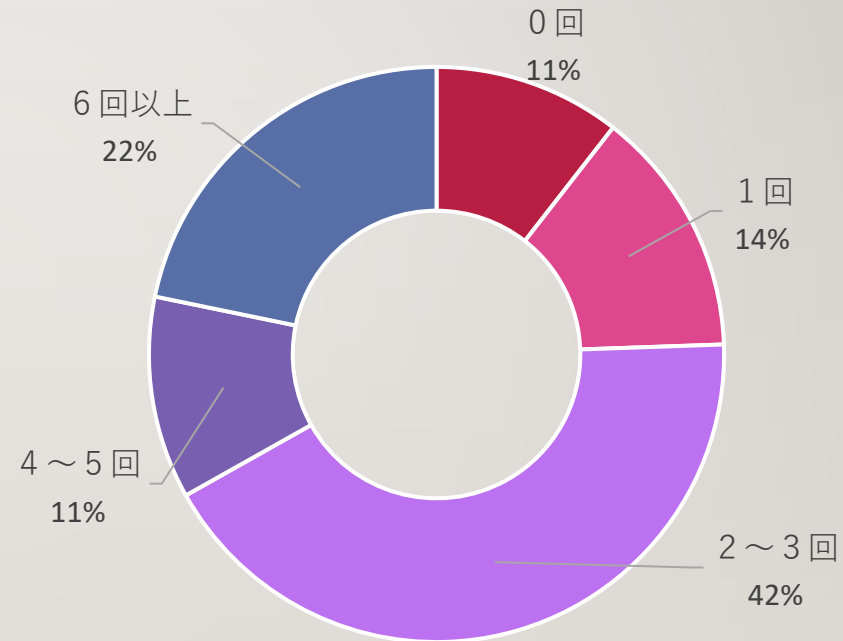
90%の方が、2人以上で住んでいる世帯に属されています。



置き配バッグ配布前 89%が再配達を経験

再配達となった頻度
(置き配バッグ配布前)

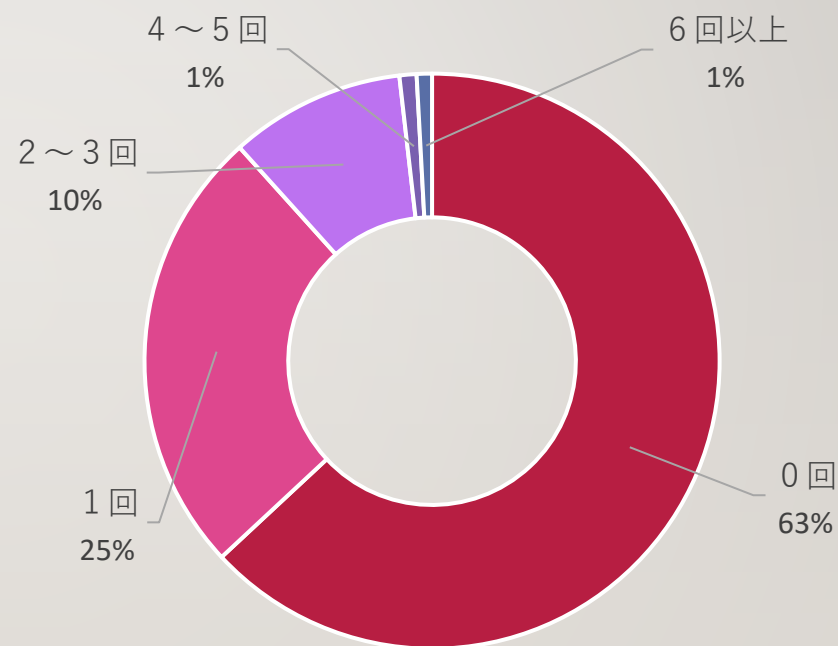
直近1か月で再配達になった頻度を見ると、「2～3回」が最多、次に「6回以上」と続き、再配達になるご家庭は、事情により複数回再配達になる傾向があるとみられます。



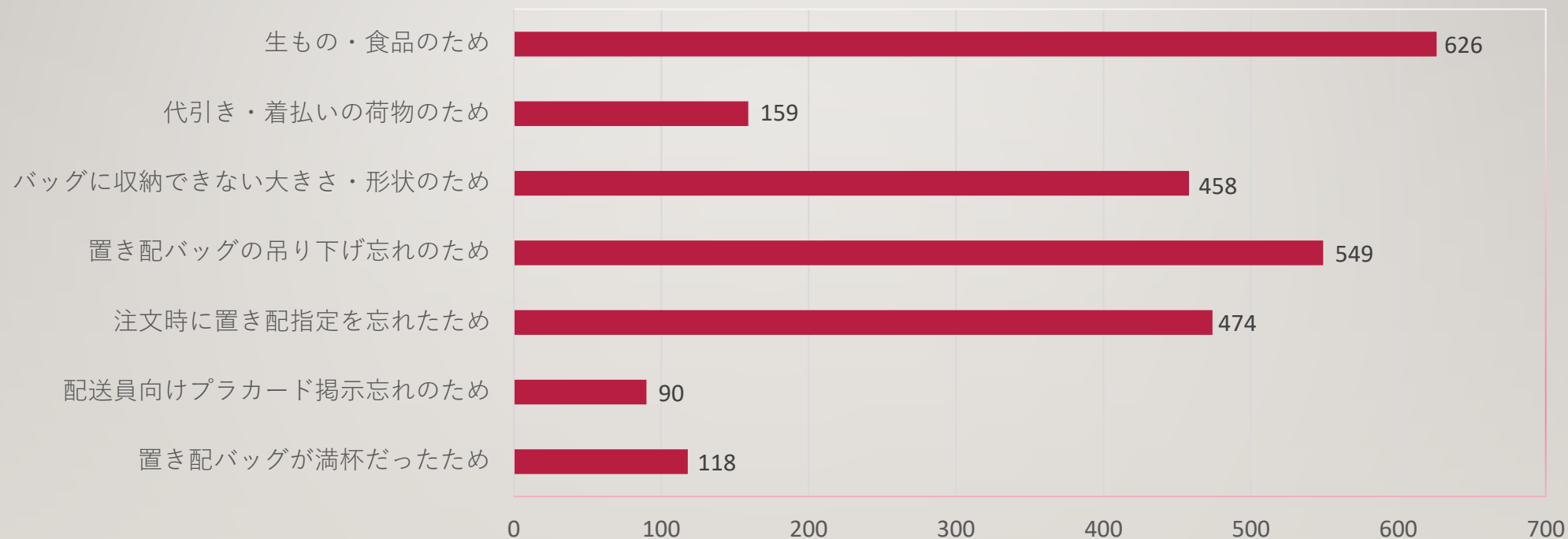
置き配バッグ配布後 再配達となった回数が大幅に減少

再配達となった頻度 (置き配バッグ配布後)

直近1か月で再配達となった頻度を見ると、置き配バッグ配布前と比較し、再配達となった回数0回と回答した人が63%、1回と回答した人が25%であり、再配達抑制の効果が見られます。



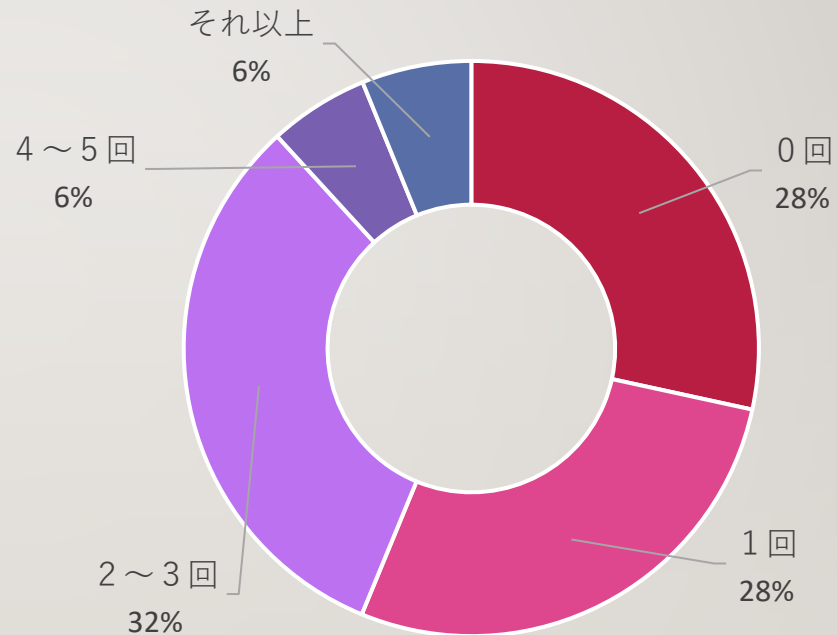
置き配バッグ配布後に再配達になった理由は 「生もの・食品のため」が最多



不在時の置き配バッグの使用率は72%

72%の人に置き配バッグをご活用いただいております。

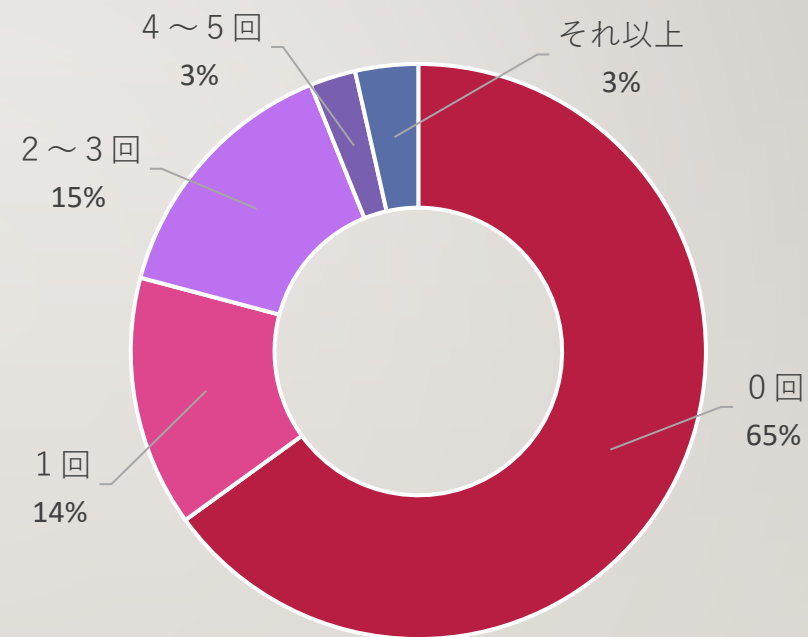
一方で、バッグを使用せずに玄関にそのまま置く「置き配」を活用する方や、事情により置き配バッグの使用をしないケースもあるようです。



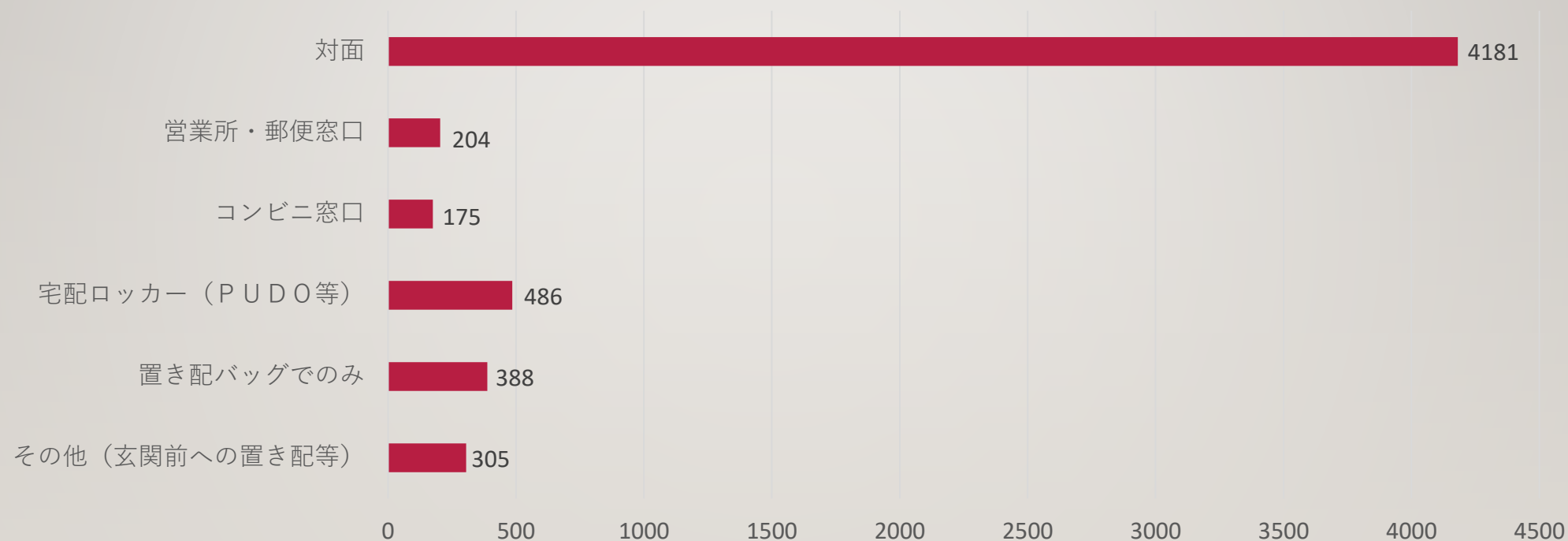
在宅時の置き配バッグの使用率は35%

不在時と比べると、在宅時は65%の人が置き配バッグを利用していない結果となりました。

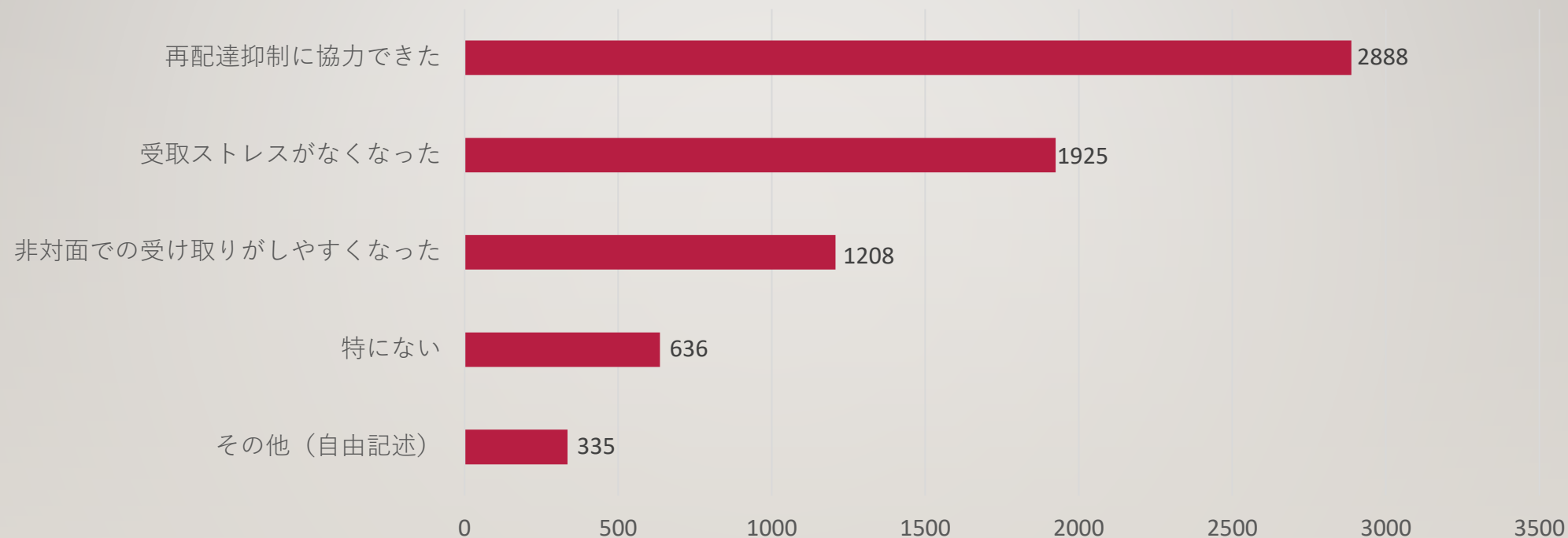
在宅時でも置き配バッグを活用している人の中には、【アンケート抜粋】



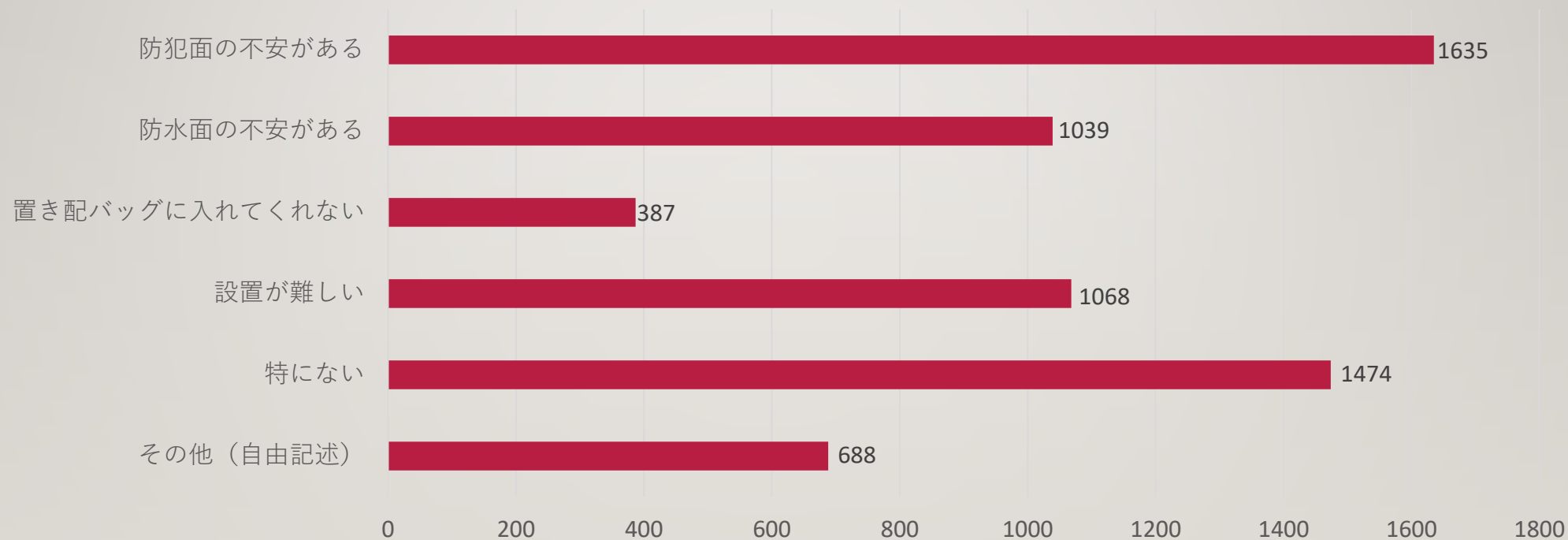
置き配バッグ以外での宅配便受け取り方法は 対面が約 70 %



事業の良かった点について 約40%の方が再配達抑制への協力と回答



事業の悪かった点について 防犯面の不安が最多で約 25 %



事業へのご意見（一部抜粋）

- 再配達は利用者にも宅配事業者にもストレスとなるため、置き配バッグにより再配達及びそのコスト等の削減に協力出来てよかった。
- 荷物がサイズオーバーで再配達となってしまったが、宅配事業者から置き配バッグの設置について感謝の言葉をいただいた。
- ネット購入で配達日を指定する必要がなくなり、購入時の不安がなくなった。
- 配送業者がバッグに気づかず不在票が入っていた、配送業者にも置き配バッグの利用を促してほしい。
- 防犯面が気になり、使用をためらっている。
- 宅配BOXの方が防犯面、防水面などで安心できる。

宅配事業者アンケート

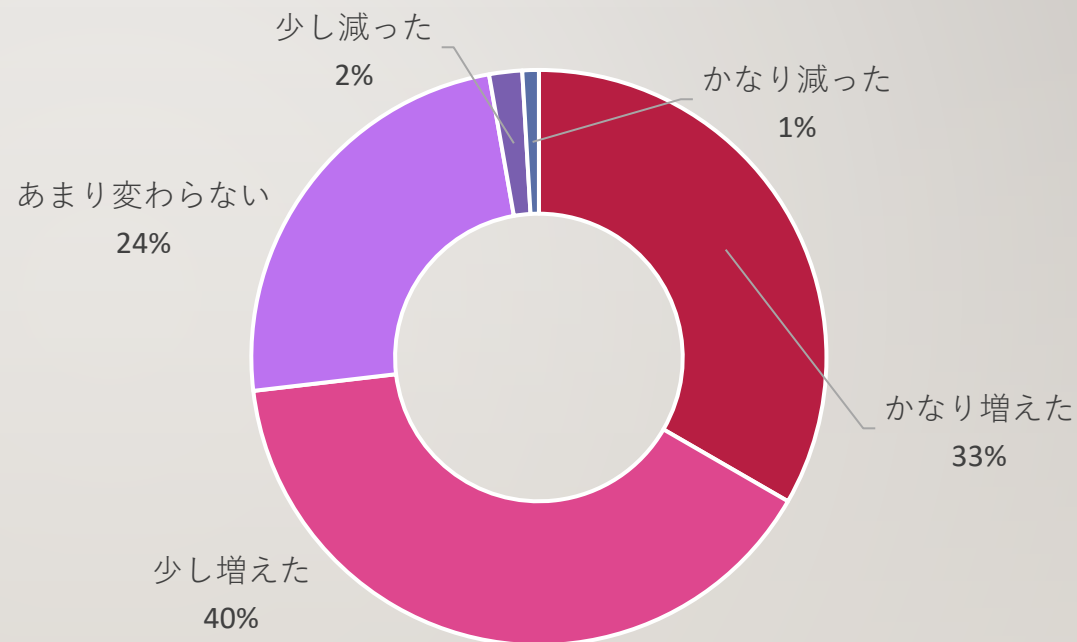


配送員の73%が非対面（置き配等）での配送が増えたと回答

1 1月以降の配送方法について

10月以前の月と比較して約70%の配送員が、置き配等の非対面配送が増えたと回答しました。

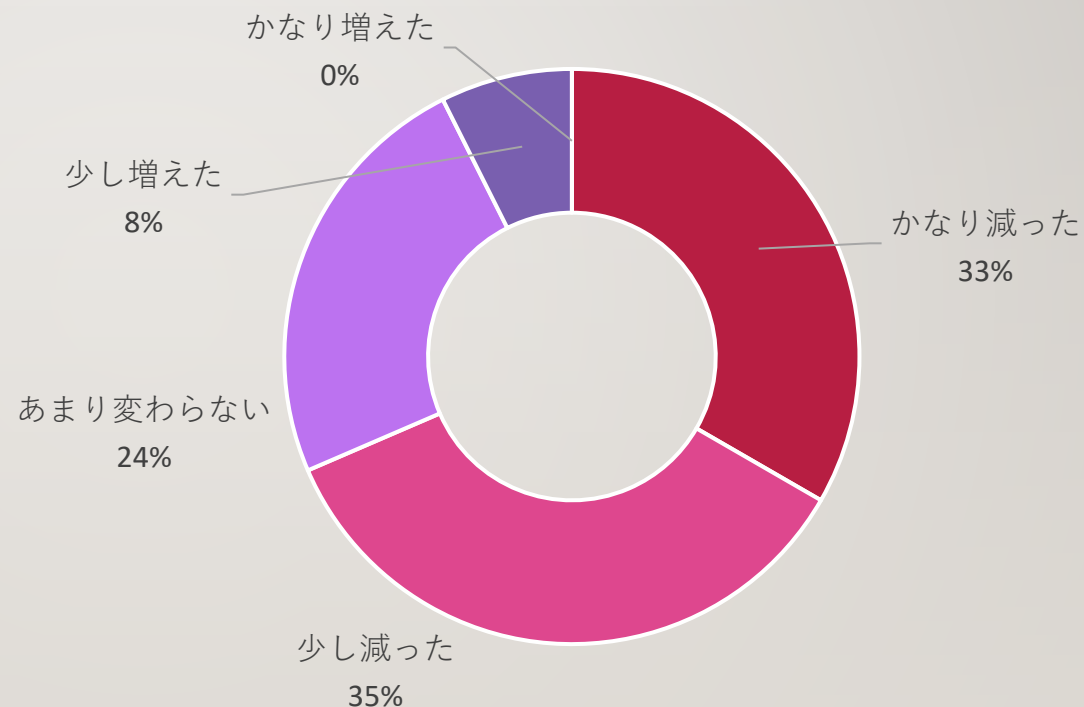
置き配バッグ当選者のアンケートによると、不在時の置き配活用が多いことから、バッグの配布が再配達抑制に繋がっていると考えられます。



配送員の68%が非対面（置き配等）での配送により、不安やストレスが低減したと回答

置き配等による非対面配送により、ストレスが低減した配送員が半数以上となっている一方、ストレスが増えたと回答した配送員も1割近くとなりました。

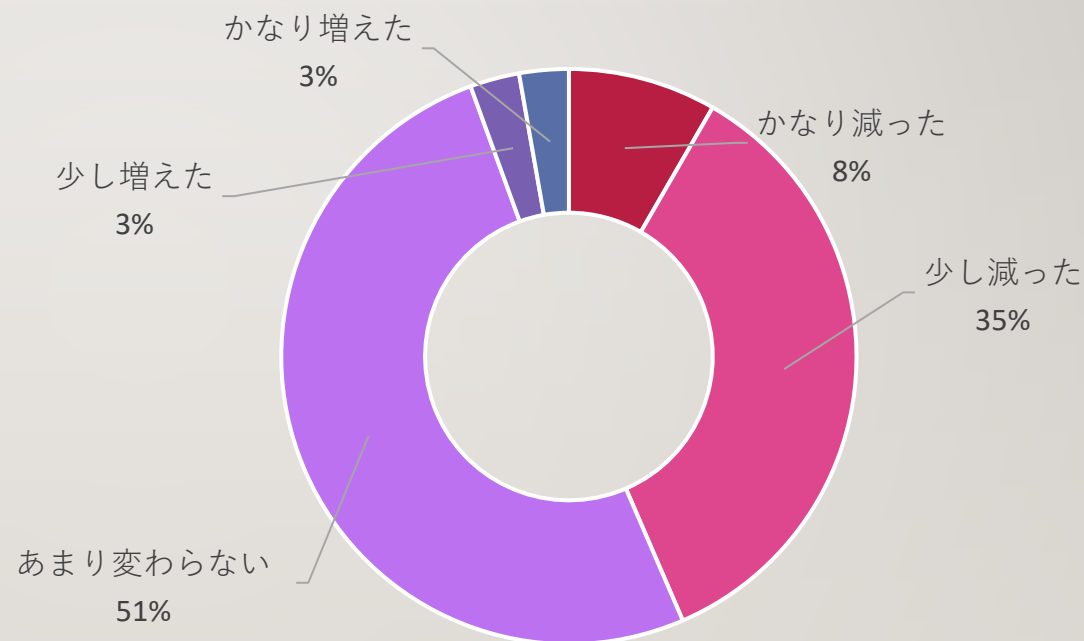
これは、置き配による責任の所在や手間等が考えられます。



令和6年11月以降の再配達率について 51%が「変わらない」、43%が「低減した」と回答

再配達率については、配送員の約半数が変わらないとの回答でしたが、43%は低減したとの回答を頂いております。

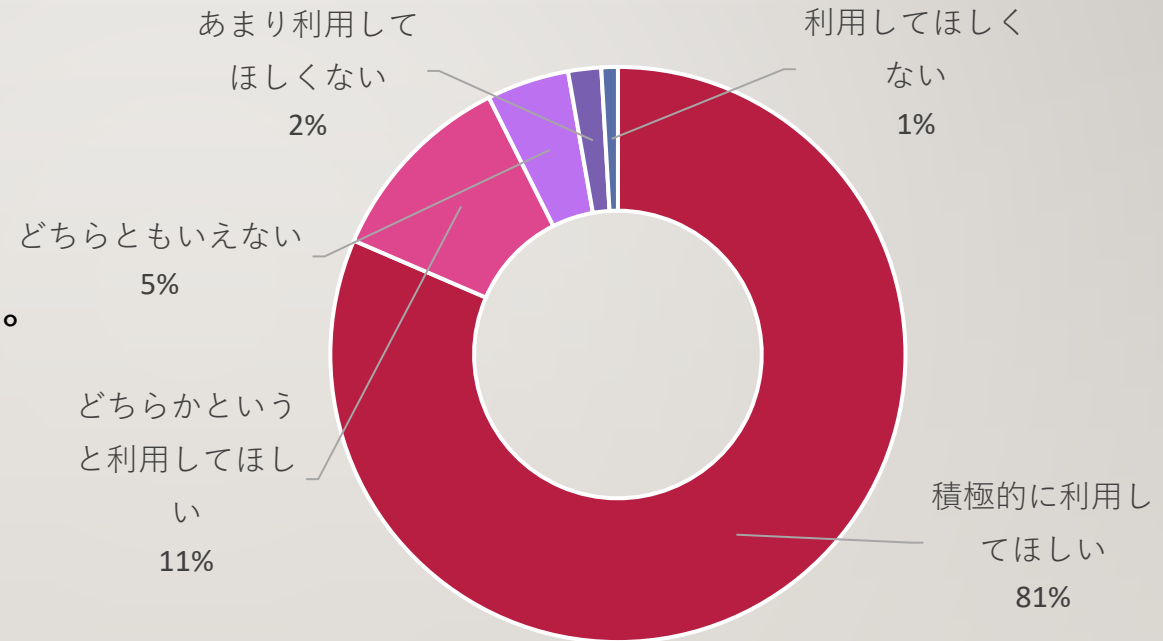
宅配する地域によっては、置き配バッグを吊り下げている家庭が少ないとのご意見をいただいております。



置き配バッグ等の簡易型宅配ボックスについて 「利用してほしい」との回答が92%

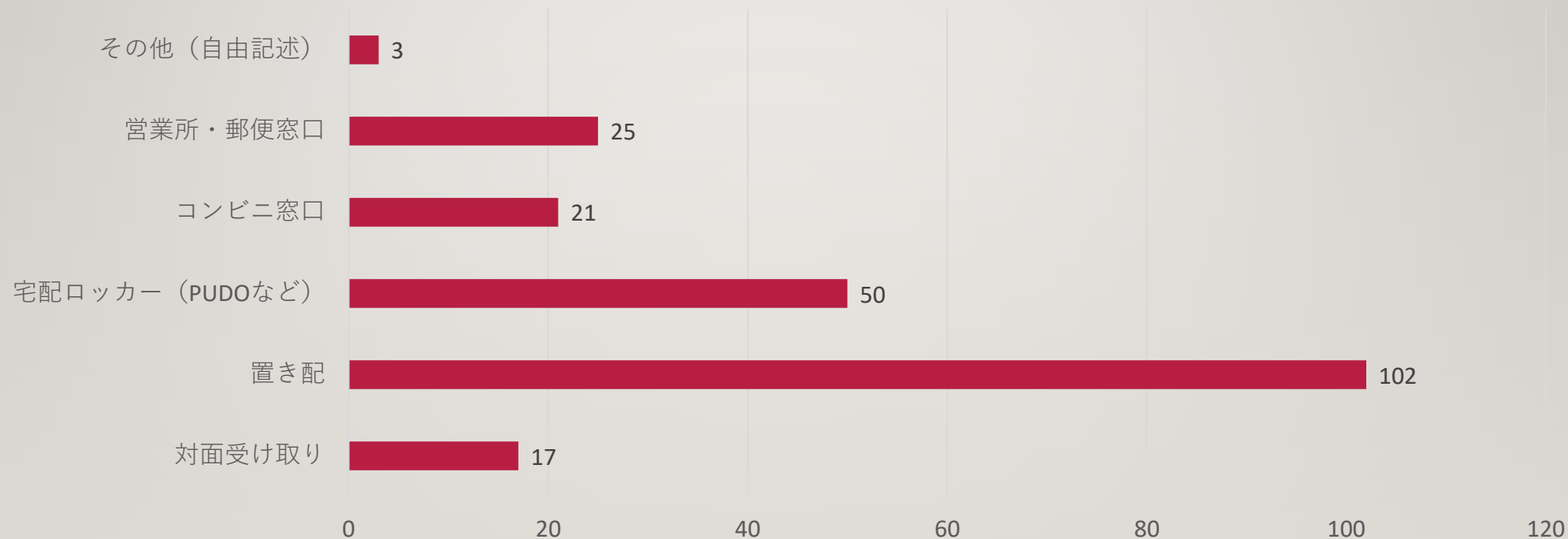
配送員の81%が「積極的に利用してほしい」と回答しています。

防犯面や防水面等を考えると、宅配ボックスの設置を望む声もあります。



宅配利用者に利用してほしいサービスについて

92%の配送員が対面以外の受け取り方法を希望



置き配バッグ等の簡易型宅配ボックスの利用に関する配送員からのご意見・ご感想（一部抜粋）

- 使用してくれる方が増える事で業務、再配達の軽減に繋がります。
- 以前に比べて簡易型のボックス等を設定している家庭が増えました。しかしながら普及率(設置率)がまだ低いように思います。どんどん普及してくれると良いと思います。
- 全世帯に設置できるように無料配布や普及に力を入れてほしい。
- 同業他社、色々な荷物が1日で届く事も多く、1度ロックしても別口から入れられる宅配BOXを希望します。
- オキッパは印鑑をもらえないので不安です。また、一般的なボックス型の宅配ロッカーに比べて出し入れがしづらいです。